

藤田先輩のこと

編集長 窪 田 昌 三



(プラセコの操縦席で微笑む学生時代の藤田先輩)

藤田 武司

2013年2月22日病没

遺族 長男 順一様

藤田先輩が、まだ若くてお元気であった頃、翔友会総会にご出席されたり、福井での同立戦の応援を頂いたりした。

何時も柔和な笑顔を絶やさず、話される越前弁が何とも耳に心地よかった。

太平洋戦争敗戦とともに奪われていた航空活動が講和条約締結(1951年)により再開された翌1952年5月、航空部は航空研究会として再発足し、6月には再発足の学生航空連盟に加盟した、その年藤田さんは入学、同時に入部された。

3年生になった藤田さんは早くも頭角を現し、戦後初の自家用操縦士試験に合格、同じく合格した吉川貞一、北尾直敬、増田寛治(いずれも故人)ら三先輩と共に、朝日新聞社主催「健康優良小学校訪問日本一周飛行」の学生パイロットに選ばれて関西・四国エリアの各ルートを分担して飛ぶなど、戦後再開直後の航空部を背負って立つ一人として大活躍をされた。

思えば3年前、同期の渡辺洋一先輩が逝去され、その追悼文のご寄稿をお願いする電話で、「私も実は数年前から癌の闘病中で、体調が悪いのだが…」と仰るので、ご無理を押ししてまではと依頼を撤回しようとしたら、「渡辺の追悼文は、私が書かないとなあ」とお引き受け下さった時のお声がまだ私の耳の底に残っている。

翔友XXV掲載のその追悼文の末尾にはこのように記されている。

—もう暫くしたら彼らに会えるかも知れない。そしたらもう一度、空への憧れとあの青春時代の友情を復活させよう！—と。